

学園での新マル生攻撃を粉碎するぞ

日刊 動労千葉

85. 5. 25

No. 1947

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五〜六（公衆）〇四七二二二七二〇七

反動人事課教育係長「高野某弾劾」

「名札強要」「年休拒否」「掲示撤去」抗う学園生につづけ

当局は、労務管理体制の強化にむけ、学園を突破口に新たなマル生攻撃ともいべき目茶苦茶な弾圧を開始した。「情勢」にのっかり、労働者の尊い権利をふみにじる局・人事課！学園当局の理不尽な攻撃に労働者の腹の底からの怒りをたたきつけてやろうではないか。

学園を突破口とした動労千葉破壊攻撃

学園当局は、「通対業務に関する教育」として五月十七日に八三名の仲間が入学するや、直ちに「名札着用」を強制してきた。

全員の怒りの追及に対し、局課員、部長まで動員し、「名札を着けなければ授業はやらない」「退学にする」「職場に帰っても乗務はさせない」

等々の恫喝を繰り返して、揚句の果ては、親が入院するために申請した年休さえ拒否してきた。

さらに掲示板に張った掲示さえ持ち去る暴挙を行った。

当局の狙いは明らかだ。

第一に、学園生を力で屈服させる新たなマル生攻撃であり、学園を突破口に全職場の「職場規律確立」＝管理体制を強化しようとするものである。

第二に、当局のいいなりにならない労働者に処分を乱発し、「過員」と認定したうえで出向、首切りを強行しようとするものである。

第三に、動労千葉の闘いが全国の国鉄労働者をまきこんで拡大していくことを事前に封殺しようとするものである。

弾圧の先頭にたつ局・人事課を許すな

われわれは、学園当局の常軌を逸した攻撃が局・人事課を先頭に強行されている事態をはっきり見据えなければならない。

学園生の切実な要求、不当弾圧への抗議に対し学園当局は、自らの判断では何ひとつ答えることができず、すべからず人事課の指示をおおぐ無能ぶりをさらけだしている。

まさに学園長は、人事課のロボットにすぎない。「ロボットや機械」に人間教育することなどできるわけがないのだ。

とりわけ、「退学者が出て『過員活用』がどうなってもかまわない」「東京から出勤をもらって

怒りをバネに反撃するぞ

やる」などと発言し、学園に多勢の局課員を動員し、係長・高野を先頭にカメラやテープレコーダーを持ち込み、現認し処分し動労千葉破壊に全力をあげる人事課を断じて許すことはできない。

合理化を強行し、すさまじい労働強化を強制する一方で、「過員活用策」なるものを押しつけて、はては「名札を着けなければ退学だ」「乗務もさせない」「親が入院しようとな休はやれない」等等、労働者の人権をも無視したやり方が通用すると思つたら大まちがいだ。

われわれは、労働者の怒りがどれほど大きなものか、当局に思い知らせてやらねばならない。明日にせまった「5・26三里塚」に、怒りをこめて総決起し、これをバネに総反撃にうつって出ようではないか。

不屈に闘う 83名の仲間

5.26 三里塚へ

新マル生攻撃と対決しよう

局・人事課を先頭に強行されている事態をはっきり見据えなければならない。

学園生の切実な要求、不当弾圧への抗議に対し学園当局は、自らの判断では何ひとつ答えることができず、すべからず人事課の指示をおおぐ無能ぶりをさらけだしている。

まさに学園長は、人事課のロボットにすぎない。「ロボットや機械」に人間教育することなどできるわけがないのだ。

とりわけ、「退学者が出て『過員活用』がどうなってもかまわない」「東京から出勤をもらって

名札をいれた退学、P 学園当局が三日間にわたって授業を放棄

116名にきき

常軌を逸した、学園のマル生攻撃を許すな

学園は収容所か！

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！